横浜天声キリスト教会　週報　第 18 巻 14 号（No.686）　2023 年 4 月 2 日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　ゼカリヤ 9:9 ･･････　御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美 ･････････････････ 140番　いざいざきたりて
*交読文 ･････････････････ 58番
*使徒信条 ･････････････会衆一同
*頌栄 ･････････････････ 138番　王の王わが主の
礼拝のための祈り ･･････ 成田エクレシア：浪川執事　天声：小林伝道師
聖餐式 ･････････････････ 281番　しみもとがも
メッセージ ･････････････ 働き人を特別に召し出される主(ヨハネ 20:21-22)
御言葉を適用する祈り ･･ 会衆一同
賛美 ･････････････････ 350番　わが罪きよめて
幸せと成功の宣言文 ････ 会衆一同
献金感謝の祈り ････････ パスター
報告 ･････････････････
*主の祈り ･････････････ 会衆一同
*祝祷 ･････････････････ パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ 10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ 10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ 3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

イエスはまた____に言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまた____をつかわす」。そう言って、____に息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。(ヨハネ 20:21−22)

イエスは三度目に言われた、「____よ、わたしを愛するか」。____はイエスに言った、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。イエスは____に言われた、「わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:17)

その時わたしは、わが家のために営を張って、見張りをし、行き来する者のないようにする。しえたげる者は、かさねて通ることがない。わたしが今、自分の目で見ているからである。____よ、大いに喜べ、エルサレムの娘よ、呼ばわれ。見よ、____の王は____の所に来る。彼は義なる者であって勝利を得、柔和であって、ろばに乗る。すなわち、ろばの子である子馬に乗る。わたしは____の周りから戦車を断ち、____の周りから軍馬を断つ。また、いくさ弓も断たれる。____は国々の民に平和を告げ、その政治は海から海に及び、大川から地の果にまで及ぶ。（ゼカリヤ 9:8−10）

メッセージ概要

本日は「しゅろの聖日（パームサンデー）」、そして今月 4 月の聖句は、ヨハネ 20:21-22 である。『*イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」*』

イエス様は働き人を、特別に扱ってくださる。主は十字架の死から復活された時、主の働き人たちに現れて、平安シャロームの息吹、聖霊の息吹を吹いて下さり、この世界を福音で塗り替える働きを託された。

本日、しゅろの聖日において、イエス様から特別な役割が授けられた、ある”働き人”の任命の場面から、主の働き人は、いかに主から特別に手厚く召し出され、主の働きへと入っていくのかを学びたい。

イエス様がいよいよ十字架にかかられるためにエルサレムに入った時、人々は「ホザナ(ホーシアンナー：ああ救って下さい)」と叫びながら、しゅろの葉を持って迎えた。その大事な場面において、イエス様が特別な働きを託された”働き人”は、なんと、ろばだった。この出来事は、旧約ゼカリヤ書に預言されており、また、4福音書全部に記されている。 イエス様は、エルサレムに入城する直前、わざわざ二人の弟子を遣わして、これこれの所にろばが繋がれているので、ほどいて来なさい、もし、ろばをほどいている間に何か言われたら、「主がお入り用なのです」と答えなさい、と、綿密に指示され、そしてイエス様は、ろばが連れて来られるまで、そこで待っておられた。そして、イエス様のところに連れて来られたろばには、弟子たちの衣服が被せられ、その上にイエス様が乗られて、こうしてイエス様は、ろばに乗ってエルサレムに入られた。

どうしてこの場面はこれほど丁寧に記され、また、なぜ主はろばを用いる事に、そこまでこだわられたのか。これは単に、ゼカリヤ書の預言を成就させるためだけではない。私達・主の働き人も、ろばと同じように、丁重な仕方で召し出される、という事を示しているのだ。主は、私達が主を知る以前から、私達を見つめておられ、知っておられ、計画しておられ、いざその時が来た時、主の使い達が迎えに来て召し出されるのだ。

その時、それまで「世の主人(サタン)」に縛られていた縄目は、ほどかれ、周りが「どうしてほどくのか」と言っても、「主がお入り用なのです」という弁護の言葉によって、解き放たれ、イエス様の所へとエスコートされ、弟子の衣服が被せられ、そうしてイエス様を背中に乗せて、人々の前へと運んでいくようになる。
大勢の人々の歓声の中、人々が敷いた衣服やしゅろの葉を踏みながら。ろばは、イエス様をエルサレム城内まで運んで降ろしたが、私達は、天のエルサレムに入城するまで、ずっとイエス様を運んで行くのだ。

ろばは聖書を調べると、主の働きを担うものとして記されている場面が多い。善きサマリア人のたとえの中で、強盗に襲われ傷つき倒れた旅人を、サマリヤ人（イエス様を暗示）はそれを見て「かわいそうに思い（原意：はらわたがちぎれる思いになり）」油とぶどう酒を注ぎ、包帯をし、「ろば（新共同訳）」に乗せ、宿屋まで運んだ事が記されている(ルカ 10:34)。普段、私達はイエス様を運ぶ者であるが、世の旅路でサタンに襲われ、強奪され、傷つき倒れた人をも、イエス様の血潮できよめ、手当し、教会という宿屋まで運ぶのだ。

士師記では、サムソンが、ろばの新しいあご骨を用いて、神の民を虐げていたペリシテ人千人を討ち取った。主の霊が激しく降ったからである(士師記 15:9-20)。私達も、主の霊に満たされるなら、たとえ骨となったろばのようではあっても、その「あご」を主は大いに用いられる。 一切の身勝手を「死」へと明け渡した主の働き人は、その口から御言葉を宣言する事によって、強力な敵をも多く討ち取らせて下さるのだ。

狂気じみた預言者・バラムの箇所でも、ろばが登場する(民数記22章)。私達は欲望に狂った預言者を乗せてはならない。汚れた欲望の道具として引きずり回され、行かなかったら打ち叩かれるだけだからだ。

また律法によると、ろばの初子は羊で贖われなければならない、と書いてある。もし贖われないなら、その首をへし折られ、殺されてしまう事になっている(出エジプト記 34:20)。だから、もし、主の働き人として召されているにもかかわらず、小羊キリストの贖いなしに働きをしようものなら、それはへし折られてしまうのだ。

主は、私達・働き人を召す時、世の主人から解放し、弟子の服を着せて、こう言われる。「*平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。*」 そして聖霊の息を吹きかけて、平安シャロームのうちに送り出してくださる。天のエルサレムに入城する日に至るまで、この世界を福音で塗り替える働きを誠実にして行く私達でありますように！イエス様のお名前によって祝福します！

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	11:30 開始
交わり	13～14 時
English Service	14 時半開始

日々の集会

月～金	早天祈祷会	5:00～
火・木・金	賛美と祈りの集会	13:00～
火～木	夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会 19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 18 巻 14 号　　2023 年 4 月 2 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX：　045-326-6211
Homepage：　http://voice.of.christ.yokohama/
email：　ephes_03-tensei@yahoo.co.jp